

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 20年 1月18日

1. 概要

実践団体名	大船渡市立綾里小学校	
連絡先	電話番号	0192-42-2100
プランタイトル	暴れ狂った海	
目的	地震や津波に対する関心を深めると共に、規律を保ち敏速確実に行動し、生命の安全を守ることを目的とし、さらに地域住民に啓発する態度を育てる。	
プランの概略	避難訓練並びに学習会、津波防災看板設置、津波被害並びに津波発生資料配布、津波劇・津波の歌披露	
プランの対象	児童・生徒、地域住民	
実施日時	平成19年4月から平成20年3月3日	
実施場所	綾里小学校並びに地域全戸	
連携した団体	連携団体の有無	有り
	連携した団体	地域の老人クラブ、綾里中学校、行政連絡員
	連携したきっかけ・理由	津波劇への観賞依頼、津波資料配布依頼
	連携団体へのアプローチ方法	団体の長へ出向いて依頼
	連携団体との打ち合わせ回数	各1回
	連携団体との役割分担	資料配布や鑑賞

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの立案過程

プラン立案 メンバーの 人数と役割	団体内の スタッフ総人数	4人
	外部スタッフの 総人数	特になし
	主なメンバーの 役職・役割	校長—企画・運営 教頭・教務—渉外 担任—演劇
プラン立案 に要した 日数・時間	立案期間	平成19年6月1日～12月10日
	立案時間	10時間
	上記のうち 打ち合わせ時間	5時間
プラン立案 で注意を 払った点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体で企画・立案する ・ 地域全体の意識を啓蒙する ・ 継続活動する 	
プラン立案 で苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校長一人での活動にならないようにする。 ・ 継続活動する難しさ。 ・ 担任を飛び越えないようにする。 	

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

3. 実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	7人
	外部スタッフの総人数	15人
	主なメンバーの役職・役割	教職員—演劇の準備・実践 行政連絡員—資料配布
準備に要した日数・時間	準備期間	平成19年6月1日～平成19年12月15日
	準備総時間	50時間
	上記の打ち合わせ回数	4時間
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	大船渡市教育委員会 大船渡市立綾里中学校
	どのように働きかけたか	防災チャレンジプランの援助で看板や演劇、津波資料配布演劇の鑑賞依頼
	結果	中学生も演劇鑑賞する。 来年度の「海フェスタ」に出演することが決まった。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	老人クラブ
	どのように働きかけたか	演劇鑑賞の依頼 津波体験談の依頼
	結果	・演劇鑑賞に数多く参加した。 ・日本海西部地震津波・チリ地震津波・昭和三陸大津波の体験談を子供達にしてくれた。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	綾里小学校PTA
	どのように働きかけたか	・津波防災のために6年生が演劇をするので、鑑賞をお願いし津波の話を子供達にして欲しい。 ・防災チャレンジプランから補助を頂き、演劇や看板の設置をしたい。
	結果	・演劇の鑑賞に多くが参加し、津波の恐ろしさを感想に書き、子供達に伝えることを考えてくれた。

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	スポットライト、バックの建物、DVD放映機器（移動式）
	入手先・入手方法	建設業者、学校予算、拝借
	機材教材の選定理由	演劇の装置、鑑賞用機器
参加者の募集	募集方法	校報、地元新聞掲載、文書発送
	募集期間	平成19年10月中旬
	参加予想人数	300名
	実際の参加人数	350名
	募集方法の成功点	新聞社の掲載、保護者や老人クラブ等への案内状配布
	募集方法の失敗点	なし
準備で苦労した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演劇では、子供達の脚本と演技の指導の難しさ（決められた時間の中での指導） ・ 演劇の継続 	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2007年 5月			<ul style="list-style-type: none"> 津波避難訓練 安全マップ個人毎作成
2007年 6月	全体計画 防災看板設置 津波資料配布	三陸町史 綾里地内地図	<ul style="list-style-type: none"> 津波防災看板の設置（2基） 津波被害状況資料配布（全戸）
2007年 7月			
2007年 8月	演劇脚本 津波の歌	三陸町史	<ul style="list-style-type: none"> 「津波の歌」作詞完成
2007年 9月	津波資料配布	三陸町史	<ul style="list-style-type: none"> 演劇の脚本完成 「津波の歌」作曲・編曲完成 アジアの大学関係者来校
2007年 10月			<ul style="list-style-type: none"> 演劇の指導 「津波の歌」の指導 演劇発表
2007年 11月	演劇の反省		<ul style="list-style-type: none"> NHKテレビ特別番組放映 来年度「海フェスタ」出演決定 保護者等から演劇の感想報告
2007年 12月	反省 報告資料作成		<ul style="list-style-type: none"> 津波来襲状況資料の配布（全戸） 反省会（来年度「海フェスタ」参加） 報告書作成
2008年 1月			<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成 津波の避難訓練（3月）

**2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【A. 素材】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	津波避難訓練	津波学習会	津波避難訓練 (予定)	安全マップの作成
実施日	平成19年4月26日	平成19年6月14日	平成20年3月3日	平成19年4月
所要時間	1	1	1	0
達成目標	地震や津波等の災害に対する関心を深めると共に、規律を保ち敏速確実に行動し、生命の安全を守る。	津波の恐ろしさを理解し、自分の命は自分で守ることを自覚させる。	地震や津波等の災害に対する関心を深めると共に、規律を保ち敏速確実に行動し、生命の安全を守る。	自宅から学校までの津波等の災害に対して、危険な箇所を確認すると共に、避難場所を確認する。
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路の避難場所確認 ・ 地区毎に担当者が付く 	津波防災看板を見ながら、災害の様子や避難場所を確認。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在校時の避難訓練 ・ 高台に全員避難 	保護者と一緒に家庭で地図をもとに確認
ツール (特別に用意したもの)	津波被災者の話	津波防災看板 被害状況資料	津波被害者の話	通学路の地図
場所	学区内	大船渡市立綾里小学校	大船渡市立綾里小学校 避難場所である保育所	各家庭

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【B. イベント】（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	演劇「暴れ狂った海」上演	津波防災看板の設置	津波の被害状況資料配布	津波の被害状況資料配布
実施日	平成19年10月27日	平成19年6月14日	平成19年6月1日	平成19年12月17日
所要時間	1	5	0	0
達成目標	津波の劇を演じることによって、恐ろしさ悲惨さを自覚すると共に、地域住民の意識を高揚させる。	子供達や地域住民に津波の恐ろしさを自覚させるために、被害状況や避難場所を地域毎に掲載する。	地域住民に津波の恐ろしさを風化させないために、意識の高揚を図る。	地域住民に津波の恐ろしさを風化させないために、意識の高揚を図る。
生成物	津波方言劇脚本	津波防災看板2基	津波地区毎被害状況資料	過去の三陸沿岸津波来襲資料
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の学習発表会で披露 ・フィナーレで「津波の歌」も披露 ・地域住民、報道関係者にも案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所で土地利用承諾 ・業者に依頼して設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波被害状況を行政連絡員を通して全家庭に配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波被害状況を行政連絡員を通して全家庭に配布
ツール (特別に用意したもの)	演劇を録画したDVD作成 舞台衣装、舞台装置等	津波防災看板	<ul style="list-style-type: none"> ・明治三陸大津波学区内の被害状況資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸沿岸を襲った過去の津波状況資料
場所	大船渡市立綾里小学校 体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市立綾里小学校体育館前 ・三陸鉄道綾里駅前 	地域内全戸家庭	地域内全戸家庭

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	演劇「暴れ狂った海」			
実施日	平成19年10月中			
所要時間	20			
達成目標	津波の恐ろしさ悲惨さを訴えるための歌や演劇を工夫する。			
生成物	津波の歌歌詞・楽譜			
進め方 (箇条書き)	津波の歌や演劇の練習			
ツール (特別に用意したもの)				
場所	大船渡市立綾里小学校			

**2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 実施後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で津波の劇を取り上げることは、防災教育のために有意義である。 ・津波の恐ろしさをこれからも子供達と話し合いたい。 ・子供達の演技に迫力があり、津波の恐ろしさ悲惨さを改めて知った。 ・事実をもとに再現したことは、これからやってくるであろう津波に対しての心構えが出てきた。これからも継続して欲しい。 ・津波防災看板の設置や被害状況資料配布は、住民にとってありがたい。 ・劇の脚本が方言だったので、祖父母との交流ができてよかった。 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が津波の恐ろしさや悲惨な生活について理解し、自分の命は自分で守ることを身につけた。 ・避難訓練や津波注意報・津波注意報などに積極的に反応するようになった。 ・地域住民の津波に対する意識の変化が見られてきた。 ・地域のみでなく、近隣の地区からも演劇鑑賞に来校したり、津波に対する話題を取り上げたりなど、津波に対する意識が出てきた。 ・マスコミや防災関係者からも注目されるようになり、アジアの大学関係者の訪問があったり市内の防災シンポジウムに招かれたり、来年度の「海のフェスティバル」参加や岩手県小・中・高・大学の教員で行うサミットにも依頼予定がある。NHKテレビでも特集番組を組んでもらい出演した。 	
成果物		
広報方法	広報した先	地域住民、保護者、大船渡市教育委員会
	広報の方法	校報「綾の海」、文書
	取材に来たマスコミ	NHKテレビ、めんこいテレビ、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、岩手日報、東海新報、ホルプ社、防災誌ポータル
	広報された内容	演劇の練習風景、演劇発表会の様子、津波防災看板の設置、「津波の歌」練習風景、方言誌や防災誌への掲載、チャレンジプランの認定、とうほく防災コンテスト入賞、アジアの大学関係者の訪問

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>成功点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波防災に取り組んでいる本校が市民に広く理解され、防災関係者の目にとまった。 ・津波に対する意識が広く市民に伝わり、意識の変化が生まれてきた。
	<p>失敗点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の津波に対する意識は高揚したが、組織だった規格や運営に巻き込めなかった。
<p>全体の感想と 反省・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の本校に赴任して以来、2年間にわたって津波防災に取り組んできたが、メインである私の祖父を題材に「暴れ狂った海」の演劇を6年生に発表してもらい、子供達や地域住民が津波に対する意識を変えてきた。 ・今年度は防災教育チャレンジプランの援助を得て、津波防災看板の設置や津波の資料を各家庭に配布し、ますます津波に対する意識の高揚につながった。 ・学校だけに頼らず、地域住民が先頭に立って防災活動をする組織の編成や気運の盛り上がりが課題である。 	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度以降の 取り組み方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は「海のフェスティバル」に児童の参加要請があるので、より充実した演技指導や取り組み方を考えるために新しい校長や6年担任を教育長にお願いしている。そして、毎年継続して子供達の演劇に挑戦させたい。 ・私が定年退職するので、引き続き演技指導などに協力したり、より充実した防災教育のあり方などに協力したりしていきたい。
	<p>ぜひ実施して みたい取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の劇を演じた中学生を相手に、防災教育に取り組めれば素晴らしいものとなるだろう。

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

自由記述



・「暴れ狂った海」6年生による演劇発表風景



・体育館横と三陸鉄道綾里駅前に設置した
津波防災看板

「暴れ狂った海」の主題歌

作詞 熊谷 勵 (校長)

作曲 今野百合香 (6年担任)

編曲・伴奏 金 賢治 (指導主事)

- 一 ふたりでかいものに 行ったね おかあさん
かぞくでいっしょに たのしく あそんだね
でももうもどらない あのひは かえらない
みんなつなみのせい おかあさん かえして

- 二 うみへさかなつりに 行ったね おとうさん
いろんなさかなつれ うれしい おもいでが
でももうもどらない あのひは かえらない
みんなつなみのせい おとうさん かえして

- 三 にいちゃんねえちゃん ありがとう みんなだよ
おもいでをいっぱい くれたね いきてるよ
つよくいきていくよ これから ひとりでも
あばれくるったうみ なにもかも かえして

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

津波体験談

今日は、津波についてお話します。

岩手県の過去の津波は、明治29年6月15日の明治三陸地震津波。この時の地震はマグニチュード8,5。最高遡上高は大船渡市綾里の38,2m。死者行方不明は岩手県下で18,158人。次に昭和8年3月3日。昭和三陸地震津波で、この地震ではマグニチュード8,1。最高遡上高は陸前高田市広田の28,9m。死者行方不明者は岩手県下で2,713人。次に昭和35年5月23日。南米のチリ沖のチリ地震津波。地震の大きさはマグニチュード9,5。最高遡上高は宮古市金浜の5,6mとなっており、死者行方不明者は県下で62人となっております。今日は、昭和8年3月3日の津波のことについてお話します。

昭和8年3月ですので、私はまだ小学校に入らないで、そろそろ入学の準備をしていた頃でした。その4月1日に、小学校の1年生に入学しました。これからお話することは、小石浜、砂子浜の当時の津波の様子であります。当時、小石浜は29軒、砂子浜は21件でした。また、津波に流された家の数は小石浜11軒、他に倒壊した家が1軒で、死者行方不明者は小石浜9人。砂子浜の方は流された家5軒で死者行方不明者2人で、両部落で11人となっております。

昭和8年3月3日午前3時頃と言われていますが、突然大きな地震がありました。家が倒れるのではないかと思われるような大きな地震で、皆、驚いて飛び起きました。大人達は外に出て、辺りの様子を見たり海岸の様子を見たりしましたが、何も変わったこともなく、外は雪が少し積もってとても寒い朝だったようで、再び床に入った人も多かったと聞いております。そのうちに2回目の地震があり、これも相当大きな地震でした。

その頃、小石浜の海の水が引いて、川の小石がカラカラと音を立てて流れたと言われていました。その頃の小石浜川は、今と違って水量も多く膝位までありました。私達はカジカやウナギ等、箱鏡を見て、手作りのヤスで突いたりざるで捕まえたりして遊んでいました。電気も消えて真っ暗になった中で、古老の「津波が来るぞー。」との大声で逃げたわけですが、今のように避難場所が決まっているわけでもなく、各自、高い所へ逃げました。亡くなった人の中には、姉が幼い弟を背負い、私と同じ年の弟の手を引いて逃げました。川向こうの方で、「こっちに來い、こっちに來い。」と家族を呼んでいる他の人の声を聞いて、川にかかっていた橋を渡って逃げたために、3人共亡くなりました。家の前の高い所へ逃げていれば助かったでしょう。また、ある家では、おばあさんが一緒に寝ていた孫を背負い、家督の息子が手を引いて逃げました。年寄りの身で、暗闇の中では速く走れなかったでしょう。そのう

自由記述

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

ちに波が来て、しっかりと握っていた手が波のため離され、年寄りと子供が亡くなりました。やっとの思いで生き延びた家督の息子が、後々まで握った手が忘れられないと、本人が涙ぐんで言うておりました。また、別の家では、逃げているうちにつまづいて転んでしまい、波に子供がさらわれ亡くなっています。つぶされた1軒の家のじいさんも逃げる途中、波にさらわれ亡くなり、他の1軒の家のじいさんは、馬小屋から馬を出そうとしましたが、馬がなかなか出ないでいるうちに波にさらわれ、じいさんと馬も死んでしまい、以上で9人亡くなりました。

砂子浜では一家2人亡くなりましたが、生き残った家族は、流された家の窓から屋根の上で、明るくなってから4人助けられたとのことでした。当時、砂子浜には、9人で鯛の巻き網をやっていた共栄丸という船がありました。船は、太い綱（縄を20本以上で編んだ綱）にウケシを付け、その上の方はロープで繋いでありました。他に、碇を一丁入れていたそうです。夜中に、ドンと船の底が水を引いた海底に当たり、驚いて船の中で若い水夫が飛び起きましたが、どうすることもできずに騒いでいるうちに波が来て、船は木の葉の如く振り回されましたが、幸いにも繋いでいた太い綱は切れましたが、1本の碇綱で助かりました。その後、辺りが明るくなってきて、機関長が船に乗りエンジンをかけて海に流され、屋根の上で助けを求めている人を助けたり、沖に流されていた小船を引っ張ってきたりと、大活躍したとのことでした。その後、共栄丸は、しばらくの間、綾里・大船渡間の巡航船となり、人々と共に色々の物資を運んだとのことでした。以上で津波のお話は終わります。

津波は、いつ来るか分かりません。今は、色々と気象庁より発表もあり、地震発生から約2分後には、津波速報「震度3以上の地域名と震度の発表」。約3分後には、津波予報「津波警報、津波注意報の発表」約5分後には、地震に関する情報「地震発生時刻、震源の位置、地震の規模(マグニチュード)震度に関する情報「震度3以上の地域と各市町村の発表、震度1以上を観測した地点の発表」など出ますが、いずれにしても大きな地震があったら、海から離れた高い所へ逃げる準備が必要と思われます。また、防災無線放送を聞いて、お父さんお母さんの言うことをよく聞くことと、学校では先生方の言うことをよく聞いて、事故のないよう気を付けることが大切であると思います。以上、つたない発表ですが終わります。最後まで熱心に聞いていただいて、ありがとうございます。

綾里老人クラブ会長 松川 一之助

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

10月28日に、僕達6年生にとって最後の学習発表会がありました。僕達の今年の劇は、方言劇でした。台本を見た時、「無理だ。こんなのできるはずない。」などと思っていました。そして役を決め、練習に取り組みました。僕のセリフは二つしかないけど、すごく長いセリフでした。僕のセリフを言う場面になりました。僕は、できるか心配になってきました。家に帰ってからも、何度も何度も練習を頑張ってやりましたその成果が出て、次の日からは台本を見なくてもセリフを言えるようになりました。練習を何度もやって、自信ができました。だから、絶対に大成功するという気持ちで、前の日はイメージトレーニングをして、当日は挑むという気持ちでいっぱいでした。

そして、当日を迎えました。僕達6年生は、係の仕事がありました。僕は誘導係でした。全校音読と合唱が終わり、5年生の劇も終わって、残る歯6年生の劇だけになりました。進行の人が、「6年生のスローガンは、燃えよ、役者魂！最高の思い出に向かって、心を一つに大きくクレッシェンドです。」と言っているうちに準備をしました。そして、スローガンを心に押し付けて劇に挑みました。僕のセリフの時は、ゆっくり大きな声で言えたのでよかったです。最後の終わりの言葉では、歌でも頑張れたのでよかったです。感動させる劇ができました。学習発表会は、最高の思い出になったのでよかったです。

学習発表会で学んだことは、協力しながら助け合えば、大きなこともできるということです。これからも、生活の中で頑張っていきたいと思います。

6年 鈴木 友樹

子供達の真剣な迫力ある演技を見て、ふと昔、お婆さんが私の小さい頃に津波の話をしていた記憶が甦り、涙が止まりませMでした。

津波があったその日、ちょうど私の母がおなかにおいて、大きなおなかのお婆さんが寒くないよう丹前を着せ、子供達の手を引いて山に逃げたと聞きました。お婆さんが走れないのでお爺さんが背負って、命からがら波から逃れたそうです。山に登る途中、後ろを振り返ると、流されていく人や家が見えたそうです。私はその話を何度も聞いていたので、地震があると真っ先に頭に浮かぶのが津波です。

私の実家は釜石の海沿いの猟師町で、家から200m位先に津波の記念碑が建っていて、お盆には墓参りの次にその場所にも行き、手を合わせます。もし、お爺さんお婆さんが津波に流されていたら、今、私も子供達もいません。この劇をきっかけに命の尊さを感じ、何より、亡くなったお爺さんお婆さんへの感謝の気持ちでいっぱいになり、私も津波の話を子孫に伝えていこうと思いました。

6年 保護者

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

暴れ狂った海 「災害は忘れた頃にやってくる」

明治三陸大津波の被害状況

明治29年6月15日午後7時50分(1896年) 最初の地震から18分後に津波「白浜38、2m」								
岩手県			死者・不明	負傷者	流失家屋	倒壊家屋	浸水家屋	船舶流失破損
			18,158	2,943	4,801	726	1,175	5,456
	被災前人口			被災前戸数				被害前
綾里村	2,251	1,269	57	367	276	20	1	222 180
田浜	421	336	15	64	58	6	0	52 49
石浜	187	146	9	28	25	1	0	28 25
港	607	374	9	118	118	0	0	35 34
岩崎	242	124	9	46	24	11	1	8 8
野々前	257	32	0	34	4	0	0	32 11
白浜	236	175	6	36	31	0	0	37 37
砂子浜	144	18	0	18	3	0	0	19 8
小石浜	157	64	9	23	13	2	0	11 8

昭和三陸大津波の被害状況

昭和8年3月3日午前2時41分(1933年) 最初の地震から20分後に津波「白浜23m」								
岩手県			死者・不明	負傷者	流失家屋	倒壊家屋	浸水家屋	船舶流失破損
			2,713	823	2,914	1,337	2,259	5,860
	被災前人口			被災前戸数				
綾里村	2,773	180	18	432	276	7	2	220
田浜	332	1	0	49	28	2	2	47
石浜	320	9	6	47	27	2	0	23
港	705	91	1	117	115	0	0	62
岩崎	376	1	0	63	51	0	0	21
野々前	368	1	0	64	6	0	0	43
白浜	312	66	11	42	33	2	0	14
砂子浜	157	2	0	21	5	0	0	2
小石浜	203	9	0	29	11	1	0	8

この資料は、三陸町史第4巻「津波編」によるものです。なお、被害のなかった宮野、野形、小路は、被災前人口と被災前戸数に加えられていません。

お願い 津波の恐ろしさを語り合い、高台に避難することを後世に伝えてください。

平成19年6月 大船渡市立綾里小学校

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

暴れ狂った海「災害は忘れた頃にやってくる」No.2

三陸沿岸で発生した津波(渡部:1987年)

発 生 年 月 日	波源(震央)	マグニチュード	被 害 範 囲		死 者 数 (記 事)
			地 震	津 波	
869年7月13日(貞観11年)	三陸はるか沖	8.6	青森	青森から宮城	溺死約1,000名
1611年12月2日(慶長16年)	三陸はるか沖	8.1	福島	北海道、岩手から福島	伊達領内水死1,783名、他水死数千名
1616年9月9日(元和2年)	宮城県沖	7.0	宮城	宮城	
1677年4月13日(延宝5年)	青森県東方沖	8.1	青森、岩手	青森、岩手	
1763年1月29日(宝暦12年)	青森県東方沖	8.0	青森	青森、岩手	
1763年3月15日(宝暦13年)	青森県東方沖	7.5	青森	青森	人馬の流失あり
1793年2月17日(寛政5年)	三陸はるか沖	8.1	岩手、宮城	青森から宮城	圧死、水死多数
1835年7月20日(天保6年)	宮城県沖	7.4	宮城	岩手、宮城	石巻、死者数少ない
1856年8月23日(安政3年)	青森県東方沖	8.0	青森	青森、岩手	溺死26名
1861年10月21日(文久1年)	宮城県沖	7.4	宮城	宮城	人畜の死傷があった
1896年6月15日(明治29年)	三陸はるか沖	6.8		北海道、青森から福島	死者22,000名
1897年2月20日(明治30年)	宮城県沖	7.4	岩手、宮城	宮城	
1897年8月5日(明治30年)	三陸はるか沖	7.7	青森、岩手、秋田	岩手	
1901年8月9日(明治34年)	青森県東方沖	7.2	青森、岩手、秋田		
1901年8月10日(明治34年)	青森県東方沖	7.4	青森、岩手、秋田		
1915年11月1日(大正4年)	宮城県沖	7.5	宮城		
1933年3月3日(昭和8年)	三陸はるか沖	8.1	岩手	北海道、青森から宮城	死者・行方不明3,008名
1936年11月3日(昭和11年)	宮城県沖	7.5	宮城		
1960年3月21日(昭和35年)	三陸はるか沖	7.2	青森、岩手		
1968年5月16日(昭和43年)	青森県東方沖	7.9	北海道、青森から宮城	北海道、青森から宮城	死者52名
1978年6月12日(昭和53年)	宮城県沖	7.4	宮城		死者28名

この資料は三陸町史第4巻「津波編」によるものです。(三陸沿岸以外にもチリ地震津波や日本海西部地震などもあり、多くの犠牲者を出しています。また、大船渡市の広報によると、平成5年以降津波警報や注意報が20回以上も発令されています。)

お願い 津波の恐ろしさを語り合い、高台に避難することを後世に伝えてください。

平成19年12月 大船渡市立綾里小学校